〈青森県史〉の窓

1

≪青森県史≫の窓　1

県が進めている県史編さん事業の成果は「青森県史」として発行されている。その中から由緒ある建物や場所、風景などを、時に現在との比較をし、エピソードも交えながら紹介したい。執筆は文化観光部文化振興課県史編さんグループの中園裕氏が担当する。

①1940（昭和15）年の土手町通り。県史編さんグループ所蔵。
②土手町通り近影。2004（平成16）年11月24日、森山潤子撮影。

土手町の変遷

中園　裕
（文化振興課県史編さんグループ）

弘前市出身者なら、土手町通りという言葉に独特の響きを感じ取るであろう。土手町は、藩政時代はもちろんのこと、近代になってからも、商店街が形成され、弘前市最大の繁華街だった。

写真①は1940（昭和15）年ころの土手町通りである。

左奥に見える高い建物が「角は宮川デパート」である。青森県最初の本格的デパートとして、1923（大正12）年に下土手町に建てられた。

当時は三階建てだったが、エレベーターを備え、エレベーターガールまで配していたというから驚きだ。

その後、1935（昭和10）年に建物を大改築して五階建てとなり、弘前市の繁華街の象徴として、多くの客を集めていた。

弘前市は第八師団を抱え、「軍都」弘前と呼ばれながら、不思議と空襲に遭わなかった。そのため「角は宮川デパート」は戦後まで無傷で残り、進駐軍の慰安所として接収された。

「角は宮川デパート」は、占領が終了した後も、総合デパートとして親しまれたが、建物が老朽化したため、1977（昭和52）年に閉店となった。

1980（昭和55）年、跡地には「ハイ・ローザ」が誕生した。弘前のアルファベットであるHIROSAKIを英語読みして、HI・ROSAと名付けたのだ。

「ハイ・ローザ」は、75店舗もテナントが入居する若者向けのファッションビルで人気を博した。しかしその「ハイ・ローザ」も1997（平成9）年には閉店し、二年後には建物自体も解体されてしまった。下土手の一角は無惨にも更地となった。

数年後、更地を整備して「屋台村」ができたが、土手町自体に往年ほどの賑わいはない（**写真②**）。車社会となり、駐車場が少なく狭い土手町通りに客が集まらなくなったのだろう。

けれども現在、駅から土手町をつなぐ通りが新装され、上土手町などはおしゃれな通りに生まれ変わっている。今後の土手町通りに期待したいところだ。

なお、この2枚の写真は『青森県史資料編近現代4』（2005年3月刊行）にも掲載している。